

一般社団法人コミュニティシネマセンター 2025年度(令和7年度)事業報告

1. 受託事業

[1] 映画上映専門家（映像学芸員）育成事業

（芸術文化振興基金 令和7年度文化芸術振興費補助金 舞台芸術等総合支援事業（芸術家等人材育成））
映画館や公共文化施設など上映の場の違いを問わず、映画上映に関連する広範な知識と創造力、現場運営に欠かせない高度なスキルを兼ね備えた専門家である、映画上映専門家（映像学芸員）を育成することを目的として以下の事業を実施した。

(1) 映画上映専門家養成講座（シネマ・マネジメント・ワークショップ）

講座は、映画上映活動を文化芸術の振興や地域文化の拠点形成の観点から大局的に捉える視点の獲得から、映画館・上映会の作り方や運営方法、上映作品のプログラミングや観客開拓のための企画開発、映画上映に関する法令、配給・配信・保存と上映との関係など、上映活動に関する必要不可欠な知識を得ることができる内容とし、各々の領域で豊富な経験と知見を有する講師陣が育成にあたった。また、本講座に付随した実践的な訓練として、グループワークによる映画上映企画ゼミを開催、次年度の実践上映会に進む3企画を選出した。

期間：2025年7月24日(木)～2026年3月12日(木) 28コマ

受講者数：42名（通学22名、オンライン20名）

共催・会場：映画美学校

(2) 映画鑑賞教育プログラム専門スタッフ養成ワークショップ

映画館やシネマテーク、学校教育の現場で、映画の鑑賞教育プログラムを企画開発し実践できる人材を育成するためのワークショップ。「夏休みの映画館」という上映会の実践を通して経験の浅い若手スタッフと映画館や学校での経験をもつスタッフや研究者が協働し、映画鑑賞教育のスキルを磨いた。

①地域の映画館での実践

－ 夏休み子ども映画館（上映会）の実施

全国各地のコミュニティシネマ（2025年度は9会場）が連携して夏休みに子ども（若年層）を対象とする上映会を開催した。月1～2回、全6回のミーティングを通して、上映作品の選定～関連イベント（ゲスト）の企画～広報印刷物の制作・広報～学校等との連携・広報活動を行い、上映会を実現した。ミーティングでは若年層を対象とする活動を行っている上映団体等を招いて簡単なレクチャーも実施した。上映館から、子どもと映画プログラムの経験が5年程度の中堅スタッフと1年未満の若手スタッフが参加、鑑賞教育プログラムの具体的なスキルの共有、レベルアップを図った。

上映作品：

ゼロ弾きのゴーシュ/風が吹くとき/パンダコパンダ/パンダコパンダ 雨ふりサーカスの巻/東京物語/
音のない世界で/動物、動物たち/ぼくの好きな先生

サイレント映画 活弁・演奏付上映 ほか

上映会場：

シネマテークたかさき（群馬）/ 東京都写真美術館/ シネ・ヌーヴォ（大阪）/元町映画館（神戸）/
福岡市総合図書館/ Denkan（熊本）/ ガーデنزシネマ（鹿児島）/ なみえコミュニティシネマ（福島）
/ 松本CINEMAセレクト（長野） 全9会場

講師（ミニレクチャー）：

村上朗子[川崎市アートセンター]/土田環[早稲田大学]/中野香[デザイナー]/阿部久瑠美[鎌倉市川喜多
映画記念館]

上映会参加者：のべ2,065人 | 1回平均36人 | 大学生以下27%（2024年：のべ1,978人 大学生以下
25%）

②学校教育との連携

定期的なミーティングを行い、学校と連携した上映会に向けて、学校との交渉、対象年齢に即した上映作品の選定、ファシリテーター向けテキスト・生徒向け鑑賞ノートの内容検討、授業の内容・進行計画等についてディスカッションした。

(3) Fシネマ・プロジェクト～映写スタッフ養成講座

フィルム映写のための技術や映写音響機器に関する知識の修得を目的とした映写ワークショップ。育成対象者が修得の成果を上映活動の現場で活かせるよう、講習にとどまらない実践の機会を併せて設けた。また、ウェブサイト「Fシネマップ」を活用した情報提供を行った。

・ フィルム映写ワークショップ

2025年12月13日(土)～14日(日) 会場：鎌倉市川喜多映画記念館

移動映写ワークショップ（映写技師対象） 参加者：11人

フィルムに触れる機会が減り続けている上映者・映写技師の育成のためのワークショップ。

フィルム映写体験ワークショップ（初心者対象）

フィルム上映会「FILM座」参加者を対象に実施。

講師：岩本知明 [FILM座] / 神田麻美 [川喜多映画記念館ほか] / 細谷洪平 [早稲田松竹] / 石川亮 [国立映画アーカイブほか]

・ フィルム上映会の実践

2025年12月14日(日) 会場：鎌倉市川喜多映画記念館 参加者：51人

フィルム映写ワークショップに合わせてフィルム上映会「FILM座」を開催した。

上映作品：『アイズ ワイド シャット』（1999/スタンリー・キューブリック）

トーク：岩本知明・神田麻実

・ Fシネマのウェブサイト「Fシネマップ」の運営

フィルム上映に関する情報を提供するFシネマのポータルサイト「Fシネマップ」fcinemap.comの運営。

[2] 映画の上映活動実態調査2025～「映画上映活動年鑑2025」の作成

（日本芸術文化振興会委託事業 令和7年度文化芸術活動の動向把握に向けた基礎資料収集事業）

映画の上映は、映画産業・コンテンツ産業の一部として捉えると同時に、文化事業、教育事業、公共的な事業として捉えることが重要である。この年鑑では、幅広い視点から上映活動をとらえ、「映画館での上映（興行）」（及び配給）に関する既存のデータを活用しながら、これに映画祭やシネマテークでの上映など公共的な上映活動に関するデータを加え、我が国における映画上映の現状を提示し、分析した。巻末には、47都道府県別に全映画館と公共の上映活動に関するリストを掲載した。上映に関するデータを多面的に収集・分析することにより、我が国における映画上映のリアルな状況を提示し、特に文化事業としての側面から、その課題を提示し、上映振興策立案のための基礎資料とされることを目指す。

Ⅰ 映画館での上映に関するデータの収集と分析

映画館での上映（興行）に関するデータは、日本映画製作者連盟（映連）「日本映画産業統計」や、経済産業省/総務省等による「経済センサス・活動調査」を活用するとともに、コミュニティシネマセンターの独自調査により、以下のデータを継続的に収集・蓄積・更新している。

- ・ 全国の映画館（約600館/3700スクリーン）リスト
- ・ 公開作品（毎年約1300件）リスト

これらを主たる基礎資料として、その推移を提示し、統計データを作成した。

諸外国のデータに関しては、各国の映画振興機関（CNC,BFI,KOFIC等）のウェブサイトで公開されているアニュアル・レポートや、「World film market trends」などから、上映に関する主要なデータを収集、その後、必要に応じてデータを加工し、(1)～(5)のデータを作成、分析を行った。

(1) 映画館数・スクリーン数・観客数

スクリーン数の推移（1993～2025） 観客数の推移（2016～2025）

種類別にみる映画館数・スクリーン数の変化（2005～2025）

地方別にみる種類別映画館数・スクリーン数の変化（2016/2025）

全国映画館地図（種類別）（2005/2025）

(2) 公開本数・公開作品

公開本数の推移(2016～2025) 興行収入の推移（2016～2025） 1作品あたりの観客数（2016～2025）

公開規模（公開作品の上映館数） 2025年に公開された映画の分類

(3) 諸外国の映画館とわが国の映画館の比較 北米・イギリス・フランス・韓国等との比較

[観客数] [年間鑑賞本数] [スクリーン数/館数] [1スクリーン当たりの人口] [1スクリーン当たりの観客数]

[入場料金・興行収入] [シネマ・コンプレックスの割合 スクリーン数/映画館数] [公開本数]

(4) 地方別データ

地方別概況（人口/映画館数/スクリーン数/年間観客数/1スクリーン当たり人口/ 1スクリーン当り観客数/一人当たり年間鑑賞回数

地方別（都道府県別）スクリーン数の推移（2016～2025） /種類別映画館数・スクリーン数の変化

10年間の開館・閉館映画館リスト

(5) 全国映画館リスト 約600館（3700スクリーン）

II 公共上映に関するデータの収集

「映画館以外」での上映活動＝公共上映の情報を、インターネット等から、随時、継続的に収集、アップデートし、主要な上映活動は、コミュニティシネマセンターが運営するウェブサイト「アートハウスプレス」
<https://arthousepress.jp/> に掲載した。

(1) 全国映画祭リスト（約220件）

(2) 公共の映画専門施設（映画資料館・アーカイブ・シネマテーク）リスト（63件）

(3) 「映画館以外」で行われる上映活動（主要な自主上映）リスト（約400件）

III 都道府県別上映施設（映画館/公共上映）一覧の作成

47都道府県別に

- ・ 映画館（2016と2025のリストを合わせて掲載）
- ・ 公共上映 映画祭/シネマテーク・映画関連資料館/ 映画館以外で行われる上映活動（主要な自主上映）の一覧を作成。合わせて、地域別映画上映地図を作成した。

IV 特別調査

2024年度より「映画館(上映活動)の現状に関する詳細調査」を実施。2025年度は、兵庫県内のコミュニティシネマ（元町映画館/兵庫県映画センター）を選定、1年間の上映活動の詳細なレポートを作成した。

- ・ 団体概要(館名/住所/電話/ウェブサイト/開設年/運営主体)
- ・ 上映活動のレポート
 - 1年間の上映作品リスト(上映日数/上映回数/観客数)
 - 上映関連イベント(特集上映/ゲストトーク/ワークショップ/子ども向け企画/映画祭等)の詳細なレポート

2. 自主事業

[1] コミュニティシネマフェスティバル～vol.1 日韓映画館の旅

※新規事業 芸術文化振興基金助成事業

公共的な上映の場、コミュニティシネマとしてのミニシアター等の魅力や重要性を広く伝えることを目的として映画祭「コミュニティシネマフェスティバル」を開催した。

“アートハウス”と呼ばれる映画館は世界各国に存在しているが、特に、韓国のアートハウスと日本のミニシアター・コミュニティシネマは、2019年以降継続的に交流を行うなど、深い関わりがある。記念すべき第1回のコミュニティシネマフェスティバルは、“日韓映画館の旅”というテーマで、日韓の若い映画の作り手の作品の上映を軸にプログラミングを行った。

開催会場・来場者数：

- ・2025年11月15日～28日 | シネ・ヌーヴォ（大阪） | 424人
- ・2025年11月9日～16日 | 福岡市総合図書館（福岡） | 487人
- ・2026年2月12日～21日 | アテネ・フランセ文化センター（東京） | 653人

※関連企画「1950年代韓国映画傑作選」

- ・2026年2月27日～3月12日 | Stranger（東京） | 600人
- ・2026年2月28日～3月6日 | ユーロスペース（東京） | 562人
- ・2026年3月13日～3月21日 | シネマテークたかさき/高崎電気館/高崎映画祭（群馬） | 221人

来場者数：のべ2,947人（全6会場） 1回平均約20人

プログラム概要

(1) 韓国と日本のインディペンデント映画

日本未公開の韓国インディペンデント映画

『成績表のキム・ミンヨン』 2022/イ・ジェウン、イム・ジソン

『ロンリー・アイランド』 2023/キム・ミヨン

『長孫一家族の季節』 2024/オ・ジョンミン

『ウォンジュ・アカデミー劇場の記録』 2023/キム・グイミン、イ・ミヒョン、チェ・ウンジ

『Mr.キム、映画館へ行く』 2025/キム・ドンホ

日本のインディペンデント映画

シネ・ヌーヴォ、福岡市総合図書館 | 『Underground』 2024/小田香『1000年刻みの日時計 牧野村物語』 1986/小川紳介

ユーロスペース×三宅唱 | 『Playback』 2012『夜明けのすべて』 2024

Stranger×空音央 | 『鶏・The Chicken』 2020『アメガラス』 2022『HAPPYEND』 2024

(2) 1950年代韓国映画傑作選 提供：韓国映像資料院

洛東江 1952/全昌江 | ピアコル 1955/李康天 | 未亡人 1955/朴南玉 | 嫁入りの日 1956/李炳逸
自由夫人 1956/韓滢模 | 地獄花 1958/申相玉 | お金 1958/金蘇東

(3) 来日ゲスト

キム・ドンホ[『Mr.キム、映画館へ行く』]/イ・ジェウン[『成績表のキム・ミンヨン』]/

イム・ジソン[『成績表のキム・ミンヨン』]/オ・ジョンミン[『長孫一家族の季節』]

パク・シヨン[デザイナー]/ジュヒ[アートナイン]

<韓国映像資料院より>オ・ソンチ /パク・セホ /キム・ボンヨン /オ・ウンミ（キュレレーター）

<韓国アートシネマ協会より>アートナイン[ソウル]/エムシネマ[ソウル]/ライカシネマ[ソウル]/

ミリム劇場[仁川]/ヘイリシネマ[坡州]/シネアトリゾーム[昌原]

各地で開催したトークなど

11月15日 | シネ・ヌーヴォ | 『Mr.キム、映画館へ行く』 キム・ドンホ

11月15日 | シネ・ヌーヴォ | 『成績表のキム・ミンヨン』 イ・ジェウン、イム・ジソン、ジュヒ

11月15日 | 福岡市総合図書館 | 『ウォンジュ・アカデミー劇場の記録』 | イ・ミヒョン、オ・テ（制作）

11月16日 | 福岡市総合図書館 | 『Mr.キム、映画館へ行く』 | キム・ドンホ
11月16日 | 福岡市総合図書館 | 『成績表のキム・ミンヨン』 | イ・ジェウン、イム・ジソン、ジュヒ
11月22日 | 福岡市総合図書館 | 『洛東江』 | オ・ソンチ、パク・セホ
11月23日 | シネ・ヌーヴォ | 『洛東江』 | キム・ボンヨン、オ・ウンミ
2026年2月20日 | アテネ・フランス文化センター | 『未亡人』 | オ・ソンチ、ファン・ギョミン
2026年2月21日 | アテネ・フランス文化センター | 『地獄花』 | 四方田犬彦、崔盛旭、石坂健治
2026年2月27日 | Stranger | 『HAPPYEND』 | 空音央（監督）
2026年2月27日 | Stranger | 『長孫』 | ジュヒ、パク・シヨン（デザイナー）、オ・ジョンミンほか
2026年2月28日 | ユーロスペース | 『成績表のキム・ミンヨン』 | パク・シヨン、湯見陽
2026年2月28日 | ユーロスペース | 『Mr.キム、映画館へ行く』 | キム・ドンホ、是枝裕和、石坂健治
2026年3月1日 | ユーロスペース | 『長孫』 | オ・ジョンミン、聞き手：佐藤結
2026年3月1日 | ユーロスペース | 『夜明けのすべて』 | ジュヒ、岡崎真紀子
2026年3月1日 | Stranger | 『成績表のキム・ミンヨン』 | パク・シヨン+岡村忠征

[2] 全国コミュニティシネマ会議の開催

「全国コミュニティシネマ会議」は2026年11月開催予定。

[3] こどもと映画 プログラム

「映画鑑賞教育プログラム専門スタッフ養成ワークショップ」と連動しながら、以下の事業を実施した。

(1) 夏休みの映画館

夏休み期間中に、全国のミニシアター・コミュニティシネマで「夏休みの映画館」というロゴを付した子ども（若年層）向けの上映を実施した。

(2) 「こども映画館～スクリーンでみる日本アニメーション！」 国立映画アーカイブ共催事業
2025年度は以下の2会場で開催した。

- ・2025年7月12日～27日 | 前橋シネマハウス | 『パンダコパンダ』『パンダコパンダ 雨ふりサーカスの巻』 | 119人
- ・2025年8月2日～8日 | 新潟シネ・ウインド | 『ルパン三世 カリオストロの城』 | 147人

[4] 映画の巡回/特集上映会の開催

(1) 映画批評月間2025《フランス映画の現在》

アンスティチュフランセ（東京日仏学院）がフランスの最新作や隠れた名作を紹介する特集「映画批評月間」。東京での開催後、全国5会場に巡回した。

- ・2025年10月2日～10月10日 シネ・ヌーヴォ | 363人
- ・2025年10月10日～10月30日 出町座 | 209人
- ・2025年10月18日～10月31日 横浜シネマリン | 396人
- ・2025年10月18日～10月24日 ナゴヤキネマ・ノイ | 169人
- ・2026年1月24日～2月6日 ユーロスペース | 1293人

来場者数：合計 約2430人

(2) ジョージア映画祭2024

主催：ジョージア映画祭実行委員会 企画：はらだたけひで

共催：一般社団法人コミュニティシネマセンター

巡回：2025年6月5日～28日 福岡市総合図書館 来場者数：588人

(3) 所蔵フィルムの上映、巡回、配給会社作品の上映協力など。

[5] コミュニティシネマ推進事業

(1) デジタルシネマ機の買換え支援事業

経済産業省・中小企業庁「中小企業省力化投資補助金」<https://shoryokuka.smrj.go.jp/> を活用した支援の申請受付が2026年1月中旬よりスタート。進捗状況を随時報告するなど、情報を共有した。

(2)コミュニティシネマへの公的な支援システムの実現に向けた活動

コミュニティシネマ（ミニシアター、シネマテーク、自主上映等）の活動に対する支援を実現するための、映画振興を担う組織や支援のための組織、法律、制度等の確立を目指して、必要な活動を行った。

内閣官房「コンテンツ産業官民協議会」及び「映画戦略企画委員会」の動向を注視。

全興連、action4cinema等との連携。

(3)コミュニティシネマの活動情報ポータルサイト「アートハウスプレス」の運営

日々全国各地で展開される多様な上映関連イベントや、映画祭、特集上映など特別な映画上映の情報を、網羅的に紹介するサイト「Arthouse Press（アートハウスプレス）芸術電影館通信」を運営。

アートハウスプレス「Articles & Reports」2025年度の記事

- ・2025年5月28日「2024年 映画館での上映一概況/公開本数・公開作品/諸外国との比較」
 - ・2025年7月23日「【特集】映画館（上映活動）の現状に関する詳細調査」
 - ・2025年10月21日「韓国インディペンデント映画の現在と『日韓映画館の旅』」
 - ・2026年2月25日「韓国映画の躍進を支えたレジェンドにして88歳の新人監督キム・ドンホ」
- 2025年度「Articles & Reports」アクセス件数：13,005（2024年度26,546、2023年度8,274）

(4)コミュニティシネマセンター会員制度の充実、見直しなど

会員の増加をはかるとともに、新しい会員制度（賛助的な会員、ライト会員等々）を検討した。

・ ウェブサイトのリニューアル、会員制度の充実、見直しなど

コミュニティシネマセンターのウェブサイトやSNSを活用し、積極的に広報活動を行った。

・ ミニシアター（コミュニティシネマ）・ネットワーク会員相互割引サービスの実施

コミュニティシネマセンター加盟館をつなぐサービスとして各加盟館の会員証を提示することにより相互に鑑賞料金の割引を実施。⇒各館の料金改定を反映、より使いやすいサービスへの改編を検討。

※ユース割の導入検討…など